

倶多楽の火山活動解説資料（平成25年1月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～4）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

大湯沼北方噴気孔群の噴気音が大きいとの通報を受けて、28日に現地調査を行いました。大湯沼北方噴気孔群の一番勢いのある噴気孔からは、「シュー」というやや大きな噴気音が発生していました。大湯沼のその他の状況には特段の変化はありませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図1-③）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。また、同院発行の『数値地図25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平23情複、第492号）。

次回の火山活動解説資料（平成25年2月分）は平成25年3月8日に発表する予定です。

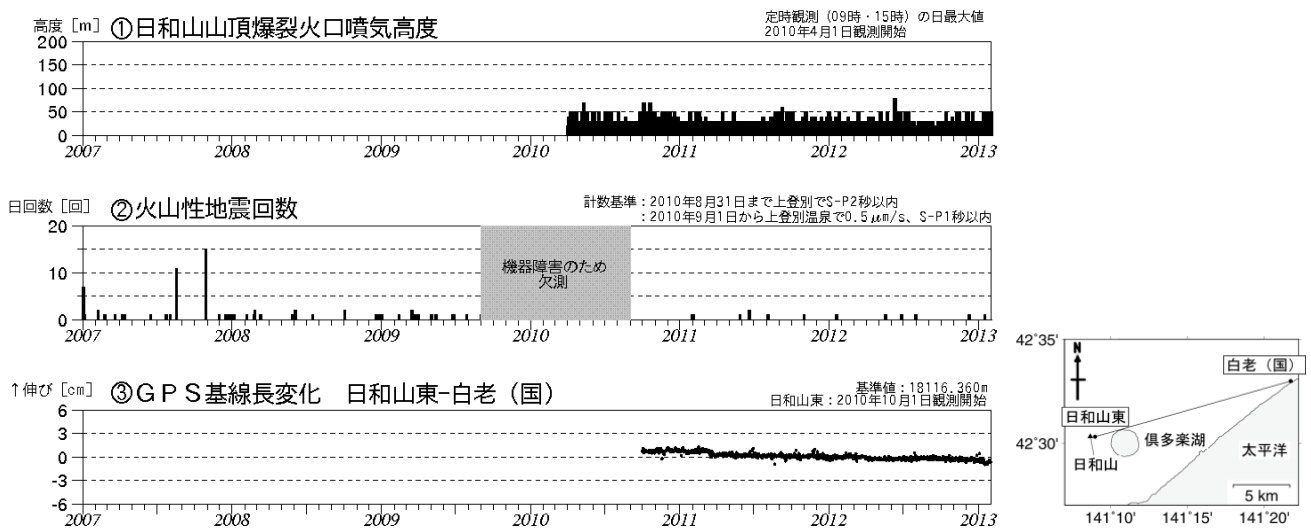


図 1 ※ 倶多楽 火山活動経過図（2007年 1 月～2013年 1 月）、GPS連続観測点配置図
 ・③のGPS基線は右図に対応しています
 ・(国)：国土地理院



図 2 倶多楽 周辺図及び写真の撮影方向（矢印）



図 3 倶多楽 大湯沼及び日和尚山の状況
 南南東側（図 2-①）から撮影



図4 倶多楽 日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
(1月23日、414m山遠望カメラによる)

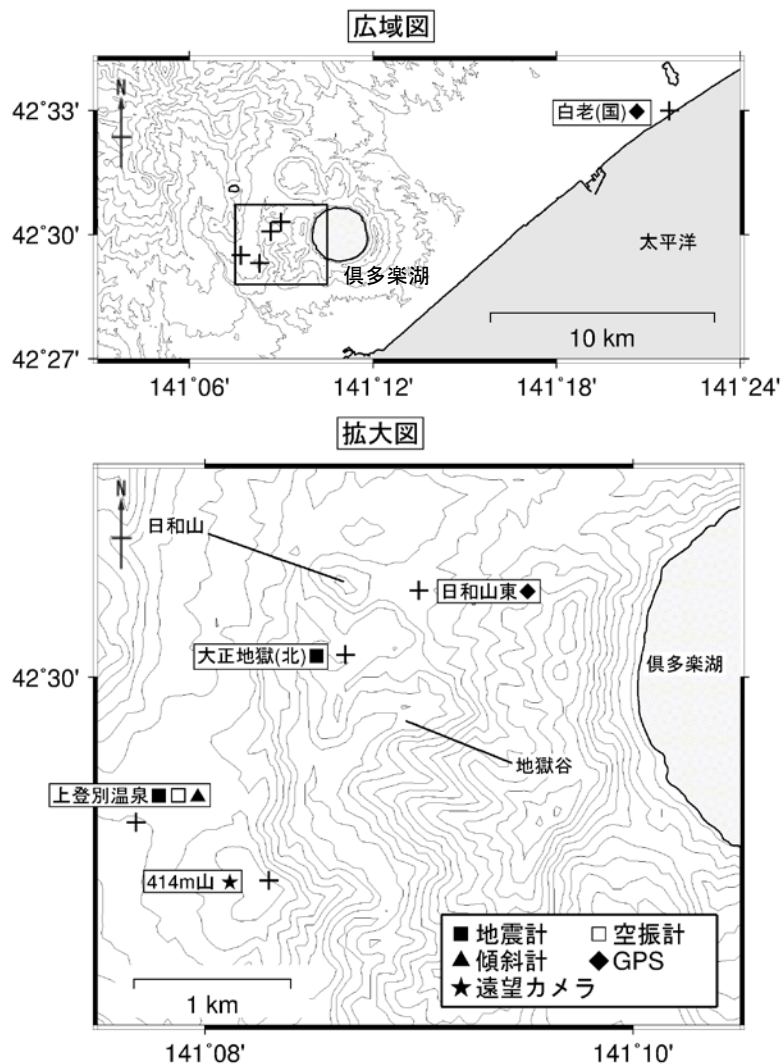


図5 倶多楽 観測点配置図
 広域図内の口は拡大図の範囲を示します
 +印は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (国)：国土地理院
 (北)：北海道大学